



### 歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました。

### 川和・宮下・角田教授のご退任にあたって

歯科放射線学 岡野 友宏

この3月、3名の教授の先生方が退任されることになりました。

川和忠治先生は冠橋義歯学の助教授として、宮下元先生は歯周病学の助教授として創設の1977年に赴任され、また両先生より5年若い角田左武郎先生も1977年に助手として赴任されました。



いずれの先生も彼此30年、昭和大学歯学部と歯科病院のために尽くされたこととなります。最初の10年間は診療、教育、研究の確立のため、中の10年間はその充実のため、最近の10年間は時代を反映して病院や教育の改革のために奔走されました。ことにこの数年は日本の歯学が大きな変わり目を迎え、本学自身も大きく変わる時期でしたので、御自身の意に沿わないことも多々経験されたことでしょうし、また様々な苦渋な決断もされたことでしょう。お察し申し上げます。

さて、川和先生は25年の長きにわたり主任教授を務められ、多くの歯科臨床医を養成されました。先生の技術の高さはそのあとに続く人たちに受け継がれています。この4年間は病院長として新設診療科の発展に手を差し伸べられました。院内の改革は痛みを伴うものでありますが、勇気を持って実行されました。ご趣味のゴルフは昭和大学随一であることは全ての方が認めるところであります。先生の診療や病院経営にも共通していることですが、すべてを上手に仕上げる才覚には目を見張るものがあります。宮下先生は前任の長谷川紘司教授と共にわが病院の歯周病診療の基を築かれました。学生には症例を介して歯周病を学ぶ姿勢を教えていらっしゃいました。求められるレベルに到達していない学生を丁寧に時間をかけて指導されていました。宮下先生のご趣味はスポーツ全てですが、スキー板の選択や年齢に応じたアンダーの選択、体の準備についてお話を伺いました。スキーにご一緒する機会がなかったのが残念です。川和先生と宮下先生は、私にとって昭和大学の先輩であり仲間であるという以上に、学生時代、現場の指導者としてかわいがって頂いたという印象の方が強いものがあります。そういう先生方が引退されるというのはさびしいことですが、同時に私自身の責任が一層重くなるのを実感しています。角田先生は

多士済々であった当時の第2口腔外科の中にあって、学究肌のもの静かな先生という印象でした。入局したばかりの若手を研究者として仕上げたのは先生の業績です。この数年間は共用試験の実施機構のなかで、ことにOSCEでは中心的役割を果たし、その確立に尽力されました。学内でも初体験のOSCEに右往左往する若手を指導して、昭和大学歯学部にふさわしい体制を築きました。

いずれの先生も退任後、名誉教授として客員教授として勤務され、引き続き歯学部・歯科病院の発展を支えてくださるものと確信しております。よろしくご指導のほど、お願い申し上げます。

### 教授送別会

顎口腔疾患制御外科学 新谷 悟

平成19年3月14日(水)のくしくもホワイトデーに、川和忠治教授、宮下元教授、角田左武郎教授の退職に伴う教授会主催の送別会が、目黒雅叙園で行われました。教授会主催の送別会には珍しいことですが、ダンディな3人の教授にふさわしくエレガントにワインとフランス料理を味わいながらの会となりました。宮崎学部長の挨拶、立川教授の乾杯には始まり、参加された先生方より、昔のいろいろな楽しい思い出やエピソードさらには、暴露話(?)など、のお言葉を頂き、会は楽しく進みました。3人の教授を送り出すことは非常に寂しい限りではありますが、しかし、各先生方より、退職後も我々の昭和大学歯学部を暖かくご指導、ご支援して頂けるとの力強いお言葉も頂きました。さらに、先生方の臨床、教育、研究に対する情熱を引き継ぎ、昭和大学歯学部を日本一の歯学部にしたいという共通の想いを確認できた送別会でした。退職される先生方と名残を惜しむ気持ちが溢れ、日付けが変わるのも気がつかないほどでした。退職される先生方には、本当にお疲れ様でした。先生方の残されたすばらしい功績と情熱に恥じないよう精一杯頑張りますので、さらなる応援をよろしくお願い申し上げます。



## 昭和大学を定年するにあたり

歯科補綴学(歯科病院長) 川和 忠治

私が第一歯科補綴学教室に助教授として赴任したのは昭和52年6月で、この頃は6月29日の歯科病院の開院に向けて全職員が一丸となって準備に忙しい頃でした。最初は教室員は数名であり、ほとんど毎日が診療でした。その後、医局員も増えユニットも15台に増設され、順番待ちの患者さんもなくなり、教授、助教授、講師を中心としたチーム診療体制を行うことにより、医局員の診療技術の向上と効率の良い診療体制を構築でき、着実に診療実績を上げることができた体制になりました。また、平成11～18年の8年間は副院長、病院長として、病院業務に専念することが多くなり、医局に迷惑を掛けましたが、古屋良一先生をはじめ医局員の協力を得て、業務をつつがなく全うすることが出来ました。この間には、平成16年度に実施された臨床系講座と歯科病院診療科再編により教員の大幅な削減、また、平成18年度には臨床研修の必須化に伴う人件費の増加等、経営の根元に係わる問題にも遭遇しました。これらの苦難にも拘わらず、平成18年度の歯科病院の収入は、開設以来、年間16億円突破と10年ぶりの予算達成が出来る見通しです。これも教職員の協力無くして成し得ないことだと感謝しております。



教育に関しては、歯学部における教育の最終目標は「社会に求められる歯科医師の育成」であるとの信念から、終始一貫して基本的知識と技術の習得に力を注いだ教育をしたつもりです。

研究に関しては、教授に就任して以来「顎口腔系に調和したクラウンの咬合を目指して」材料と機能的側面から一回生の福永秀樹先生を皮切りに研究をスタートさせました。その成果の一つとして昭和大式のトレーを用いないシリコン咬合印象を確立しました。石田和弘先生が昭和62年の補綴誌(約120編)を代表して「Dentistry in Japan」に掲載されたこと、篠田浩人、樋口大輔、高場雅之先生が補綴誌の奨励論文賞を受賞したこと、また、科学研究費補助金を3件受け、研究を



発展させられたことが、これらの一連の研究が評価されたものと思っております。平成16年4月に冠橋義歯学教室と有床義歯学教室が統合され、歯科補綴学教室になり、丸3年が過ぎました。医局員の協力により、一つの教室としての体制が整いつつあります。今後は医局員とOBが一体となって、更な

る教室の発展のために協力して頂けるものと確信しております。

## 平成18年度昭和大学卒業式挙行される

歯学部長 宮崎 隆

平成18年度の昭和大学卒業式が、平成19年3月16日(金)に神宮外苑の日本青年館で挙行されました。当日未明には東京で明治9年の観測開始以来最も遅い初雪になり天気が心配でしたが、幸いに雨はあがり寒い曇り空の中での卒業式になりました。細山田学長から各学部の総代に卒業証書・学位記が授与されました。歯学部は第25回生104名を代表して、大塚福長君が総代を務めました。学長告辞と小口理事長の祝辞に引き続き、各種表彰が行われました。歯学部では山口壮一君が上條賞、山藤千紗子さんが上條旗ヶ岡賞、谷口誠君、岡本彩子さん、佐藤優さんの3名が同窓会賞を受賞しました。記念品贈呈、花束贈呈、そして校歌斉唱をして厳粛なうちに卒業式は閉式となりました。



その後、各学部に分かれて伝達式を挙行了しました。歯学部会場は、日本青年館4階の宴会場でした。今回はご父母の出席が非常に多くて用意した椅子が足りず、多くの方を立てて申し訳なく思っています。式典は立川学生部長の司会と開会の挨拶に始まり、宮崎歯学部長、川和歯科病院長、飯島歯学部同総会長の挨拶のあと、宮崎学部長から華やかに正装した卒業生一人一人に卒業証書・学位記が伝達されました。その後、昭和大学歯科医学生賞を始めとする表彰が行われ、佐藤教育委員長の開会の挨拶で終了しました。今年の卒業生は歯学部創設30周年の記念すべき年度で、区切りの良い第25回目の卒業生であり、卒業後の活躍が期待されます。

## 診療統計 (平成19年2月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,931	769.6	716.1	795.5
入院患者	320	11.4	11.4	10.5

(土曜日半日も1日として扱うため、平均は見かけ上下がっている)

## 専門医・指導医

広報委員長 五十嵐 武

下平 修:日本補綴歯科学会専門医・指導医取得

## 平成18年度 学生表彰

学生部長 立川 哲彦

平成18年度の卒業式並びに卒業学位記伝達式において、下記の学生の表彰がおこなわれました。誠にありがとうございます。

上條賞	山口 壮一
同窓会賞	谷口 誠
同窓会賞	岡本 彩子
同窓会賞	佐藤 優
上條旗が岡賞	山東 千紗子
総代	大塚 福長
歯科医学生賞	藤井 梨乃
歯科医学生賞	磯部 明夫
デンツプライ賞	田中 智久
デンツプライ賞	榎本 聡子
ウォーターピック補綴学優秀賞	酒井 敬一

## 歯学部謝恩会

小児成育歯科学 井上 美津子

昭和大学歯学部第25期生の謝恩会が、平成19年3月16日(金)に帝国ホテル光の間で開催されました。当日は卒業式、伝達式が日本青年館で行われた後、医学部、薬学部の謝恩会も同ホテルで開催されたため、各フロアに昭和大学卒業生をはじめ御父兄や大学関係者が大勢参集しました。

卒業生と御父兄の拍手に迎えられ、講師、助教授、名誉教授、教授と1人ずつ入場して会は始まりました。川和病院長の乾杯の後、細山田学長、小口理事長の御臨席を待って御挨拶が続き、宮崎学部長から卒業生へエールが送られ、祝宴に入りました。

余興では、卒業生とその仲間によるストリートダンスが披露され、プロ顔負けの見事なダンスに拍手喝采でした。恒例となったランキングでは、「授業のわかりやすい先生」の1位に昨年と同様、口腔微生物学の五十嵐教授が、「父親になってほしい先生」には歯科麻酔科の吉村教授が1位に選ばれました。会場での記念撮影の後、会はお開きになりました。卒業生の皆様の今後さらなる御活躍を心より祈念いたします。



## 学生生活指導のための教育職員ガイダンス

学生部長 立川 哲彦

教育職員の学生指導のためのガイダンスが学生部主催で平成19年3月19日(月)4時30分から上條講堂において開催されました。特別講演として横浜市北部病院副委員長 中島宏昭先生に「指導担任の言葉と力・・・良き医療人育成のために」と題してご講演していただきました。本講演では学生の潜在能力を引き出す意義、人との出会いによる人間関係の育成、人生に意味ある貢献とは何か、などのお話で、教育現場にいる我々にとって非常に示唆に富み、指導者の生き方を方向付けられる講演でした。続いて、本学医学部精神医学教室の平島奈津子先生から「本学学生のメンタルヘルスケアの現状」と題してご講演いただきました。平島先生は講演のなかで実際の症例をわかりやすく説明され、学生がどのようなことで悩み、つまづく可能性があるかを考察され、改めて学生指導の難しさやメンタルヘルスケアを推進しなければならないことを痛感いたしました。また、本学学生相談室カウンセラーの柴田玲子先生より「学生の心の成長とその支援」と題してご講演いただきました。本講演では本学学生の悩み、相談をまとめられ、各事例から見えてくる問題点の解決過程を判りやすく話され、医療人という専門職養成のための大変さがある反面、専門職の良さという点からの悩み問題解決法を教えていただいた講演でした。

このガイダンスには4学部から251名の参加があり、講演終了後も参加者からの質問があり、参加者は学生のより良き指導のために日ごろから熱心な指導をしていただいていることが窺えるガイダンスでした。

## 第2しらかば寮が完成

歯学部長 宮崎 隆

昨年度の新女子寮(すみれ寮)に引き続き、今年度の学校法人事業計画「昭和大学富士吉田校舎教育施設整備工事第 期 - 1」として6階建ての新男子寮(第2しらかば寮)が完成し、去る2月28日(水)に内覧会と竣工式が行われました。仕様はすみれ寮とほぼ同じですが、男子寮として堅固で落ち着いた雰囲気の内装になっています。グラウンドは水はけを始め全面的に整備され、春草舎(部室)はすみれ寮の北側に移設されました。また、富士吉田校舎1回生が植樹した櫻の巨木が、シンボルツリーとして保存され、春の開花期にはライトアップされる予定です。



## 歯学部選抜 期入試報告

口腔生理学 井上 富雄

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H18.11.1 ~ 11.8	H18.11.12(日)	H18.11.1(火)
編入	若干名	H18.11.1 ~ 11.8	H18.11.12(日)	H18.11.1(火)
センター	10名	H19.1.4 ~ 1.23	H19.1.20(土), 21(日), H19.1.28(日)	H19.2.8(木)
選抜期	55名	H19.1.4 ~ 1.23	H19.1.28(日)	H19.1.31(水)
選抜期	8名	H19.2.13 ~ 2.28	H19.3.4(日)	H19.3.6(火)

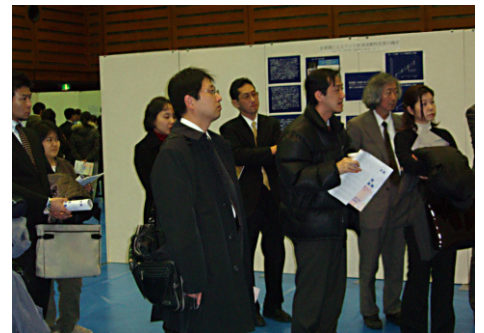
選抜 期入試が3月4日(日)に実施されました。当日は晴れの暖かい天候に恵まれ、交通等の乱れもありませんでした。期入試と異なりまして、英語と数学のいずれかと理科(物理、化学、生物から1科目選択)の合計2科目と小論文が試験科目となり、あわせて 期入試と同様に集団面接も行われました。8名の募集に対して166名(20.8倍)もの志願者があり、昨年よりも43名減少しました。合格発表は3月6日に行われ、8名(男子4名、女子4名)が合格しました。

以上をもちまして、平成19年度入試が無事終了しました。ご協力いただいた職員の皆様、誠にありがとうございました。

分担者の入れ替わりがあり、研究代表者からは少し研究の趣旨が異なるためといった説明がなされ、厳しさをにじませていました。このセッションには新たに歯学部から新谷教授が加わり、『口腔癌唾液サンプルにおける新規腫瘍 マーカーの探索』というテーマで研究をスタートされています。

発表会のスタイルは昨年と同様で、午前中に研究代表者による課題別の報告会が1号館7階講義室で行われ、午後1時から3時までは50周年記念館でポスター発表という忙しいスケジュールでしたが、各研究課題で活発な成果発表と議論が繰り広げられました。共同研究促進会議議長の細山田明義学長からは、昭和大学発のこの研究により実り多き成果が得られるように、より一層研鑽を積むようにという激励を頂戴いたしました。課題によってはこの1年で数多くの論文発表を行っているグループもあり、アクティビティーに差がある感も受けました。

来年は課題ごとに結果を提出する年でもあり、成果発表会もより活況を呈すと思われま。



## 平成18年度共同研究成果発表会

歯科理工学 玉置 幸道

平成18年3月3日(土)に今年度の共同研究成果発表会が昭和大学50周年記念館で開催されました。今年度も昨年に引き続き以下の5項目の研究課題で活発な議論が繰り広げられました。

生活習慣病の危険因子の解明と治療(代表:副島和彦教授)

高度再生医療の開発(代表:草野満夫教授)

高次脳機能の解明とその障害に関する研究(代表:塩田清二教授)

生体材料と代替医療の開発(代表:宮崎 隆教授)

メタボローム解析による難治性疾患治療法の基礎基盤構築(代表:野瀬 清教授)

共同研究では、それぞれの課題に合致した研究テーマが各学部から選択され3年計画でその研究を遂行するもので、本年はちょうど中間の2年目にあたります。各研究の進捗状況もさまざまであり、この項目では一部研究



## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 4月 1日(日):大学院歯学研究科入学式
- 4月 2日(月):平成19年度進級式(新2,3,4年生)
- 4月 6日(金):昭和大学入学式
- 4月 6日(金):平成19年度進級式(新6年生)
- 4月16日(月):D6選択実習開始

## 編集後記

広報委員(歯科薬理学教室) 坂井 信裕

年度末のお忙しい時期にも関わらず、ご寄稿して頂きました先生方に於かれましては、この場をお借りして御礼申し上げます。

3月18日に発生した能登半島地震で多くの方が被災されました。心よりお見舞い申し上げます。

今年の桜の開花宣言は、東京が全国で最も早く発表されました。初雪の遅延記録と共に昨今の異常気象を象徴するような出来事でした。今年は冬が過ごしやすかった分、これから訪れる夏の気温や水不足など、今から心懸かりに思っています。

まもなく新年度がスタート致しますが、皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。